

---

# 裏社会 短編集

つばさ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

裏社会 短編集

### 【Nコード】

N0221M

### 【作者名】

つばさ

### 【あらすじ】

裏社会のことを想像して書きました。フィクションです。

## 大予言（前書き）

フィクションです。以前書いたものを短編集ように改正しました。

## 大予言

2012年。世界中でパニックがおこっていた。  
彗星と地球が衝突するかもしれないという予言がはつれいされたためである。

「死ぬ前においしいものでも食べに行こうか。」

「死ぬ前に富士山を見に行こう。」

などといった、会話が町中で頻繁に耳にするようになった。  
そして衝突予定時期が近づくにつれ、贅沢なことをしはじめた。  
しかし結局なにも起こらなかった。  
世界各地でお金が大きく動いただけだった。

「うまくいきましたね。」

フランスの国連代表者が言った。

「そうですね。大予言作戦がこんなに影響を起こすとは。」

ロシアも続いた。

「これもすべて、アメリカさんの“NASAの偉大さ”のおかげです  
ね。」

「いやいや、日本さんのアイデアのおかげです。」

「なにはともあれ、これで世界大恐慌が防げましたね。」

## モンスターペアレント（前書き）

フィクションです。

## モンスターペアレント

「まったく。この学校の教育はどうなってるんだ。」

正明の親と名乗るものが、学校に押しかけてきてから1時間がたった。

「あなたの教育が悪いからうちの子が怪我をしたんだ。」

「すいません。」

新任教師の京子はいかにも泣き出しそうな顔で深々とお辞儀をした。

ある日、正明が学校から家に帰ってきた。いつものように、宿題もしないで真っ先に友達の家遊びに行った。しかしその家に遊びに行く途中で、階段につまずき軽い擦傷を負ったのである。このことを京子は攻められているのである。

うわさでは聞いたことがあったがいわゆるモンスターペアレントであつた。

「どうしてくれるんだ。」

モンスターペアレントはしつこく聞いてくる。

「すいません。私の不注意が招いた事故です。」

京子は心にも思わないことを言い続けた。しかし、

「ほんと。あなたみたいな人が学校の先生が勤まるわけないじゃないですか。」

という言葉に怒りが頂点に達し、とうとう牙をたててしまった。

「さつきから何言ってるかわかってるんですか。正明君が怪我をしたのも親の監視がなっていないからじゃないですか。それを私に押し付けられても困ります。」

まるでドラマの様に迫力があつた。

「子供が擦傷をおったくらいで学校まで足を運んで恥ずかしいと思わないのですか。」

「。。。。」

「他になにか言いたいことがありますか。もし用事が済んだのなら帰っていただけますか。」

京子が一番言いたかったことを思い切って言った。

モンスターペアレントは怒りをこらえるような顔で黙って職員室を後にした。

「どうでしたか。」

文部省教師選考委員長が尋ねた。

「彼女は合格ですね。道理がなってます。良い教師になるでしょう。」

「

モンスターペアレントは答えた。

「そうですか。では次は神戸市立渡小学校に行ってもらうことになりますがよろしいですか。」

「子供にはかわいそうですけど、仕事のためです。わかりました。」

## 迷惑メール（前書き）

フィクションです



## 迷惑メール

- 3月 -

彼氏の和弘が急にアフリカに出張に行くと言った。

「3ヶ月後の6月に帰ってくるからまって。帰ってきたら真っ先に連絡するから・・・。いつでも連絡取れるようにしてて。」  
と言い残し姿を消した。

- 4月 -

それから1ヶ月がたったある日、迷惑メールが来た。和弘にアドレスを変えるなどいわれたので、唯一の対処法であるアドレス拒否をした。しかし、日に日に違うアドレスから迷惑メールがくるので、きりがないと由美は悟った。

- 5月 -

そして今日もおよそ60通の迷惑メールがきた。

由美は和弘からのメールがきていないかと思いつきながら、慣れた手つきで1件1件メールを見ては消去していった。

「あと1ヶ月待てば和弘が帰ってくる。それまでの辛抱だ。」

由美は自分にそう言い聞かせ、また一つ迷惑メールを消去した。そしてポストに入っていた携帯電話の請求書をみた。

由美はそれに驚きを隠せなかった。

迷惑メールのせいで、請求額がいつもより約4倍であったのである。  
「しょうがない。」

由美は自分に言い聞かせた。

- 6月 -

「和弘君がんばってるわね。」

「そんなことないよ。」

「業績一位じゃないの。」

「まあね。心が痛むよ。」

「彼女達あなたのこと待ち続けてるのね……。もう帰ってこないのね。」

「うん。でも驚いたな。」

「ん？何が？」

「携帯電話会社が迷惑メールを送ってたことだよ。」

「そうね。私もはじめは驚いたけど、他社との破格競争で安いプランにしちゃったから、そうでもしないと儲けでないもんね。」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0221m/>

---

裏社会 短編集

2010年10月20日17時41分発行